



VOL.3
2020.2.10 発行



代表取締役社長 **市川 滋乙(重人)**

(前編より続く)

2000年(平成12年)4月、半年間のアルバイトを経て南星キャリアックス株式会社に正式に入社した市川滋乙(重人)社長。豊田営業所にてトラックドライバーとして勤務し、その後業務を管理する立場を任せられます。

少しずつキャリアを重ね、ついには経営のバトンを渡されたときのことを、市川社長は「驚くほどスムーズな社長交代だった」と振り返ります。その背景には、長年にわたり会社を支えた一人の社員の存在がありました。

「本社ではどのようなことを学びましたか。」

本社配属となつてからは、基本的には営業やら業務管理をし

ていましたが、人手が足りないときには変わらずトラックの運転もしていました。

その頃、既に他界されましたが、当時専務であった野村さんという方が私のお目付け役や指導役になってくださいました。営業はもちろん、事業計画の統括の方法や経営についてなど、たくさんのことを教えていただき、後継者としての意識を高められました。現会長である当時社長の父と野村専務、そして私の3人で、よく会社の問題、課題や事業計画、将来について話し合ったのを覚えています。

ただ、その後専務の病気がわかり、療養に入ってしまった。発覚から約2年かけて、私は専務のそれまでの仕事を参考に引き継いでいきました。業務内容だけではなく、仕事の思いや考

え方も、です。

当初は父が60歳になったときに社長交代をする予定だったのですが、母の病氣と死、リーマンショックと専務の病氣など、様々なことが重なったために、少し時期が延期されました。そうして父が65歳のとき、正式に私が代表に就任したのです。

残念ながら野村専務に立ち会っていただくことはできませんでしたが、教えていただいたことは、その後の経営でも生きています。本当に、感謝してもしきれません。そして何より、専務を慕っていたベテラン社員さんたちも、社長が交代し、社内の体制が変わったあとも、皆一丸となってよりよい会社を作ろうと、気持ちを揃えてくれました。私が専務から業務を引き継ぎ、そのやり方を学ぶ様子を見

てくださっていたからでしょう。あの2年間があったからこそ、一つにまとまることができました。たのだと思います。

「ありがとうございます。社長にご就任されてからは、何に注力されてきたのでしょうか。」

社内の基本的な体制や考え方などは父の代から引き継いでいますが、それをさらにブラッシュアップさせよう、より良くしようと心掛けてきました。

経営方針の発表方法や認証制度の取得、社内懇親の頻度を増やすなど、少しずつですが既存のものをさらに充実させるべく取り組んできたつもりです。

私が大切にしているのは「色々な人の意見を聞くこと」です。南星キャリアックスは決して

トップダウンの会社ではありません。何かを決める際は、社内ですっきりと相談し、皆で考えていきます。これからも、この社風は大切にしていきたいと思っています。

「それでは最後に、社員の方の良いところについて教えてください。」

ドライバーさんたちを含め、社員の皆は真面目で親切な良い人ばかり。私が入社したときに「社長の息子」というレッテルを貼らずに接してくださいましたのも嬉しかったですし、団結力があって、同じ目標に向かって進む力があると感じています。

ですので、お客様を大事にすることはもちろんですが、私はやはり社員さんを大切にす

ともしっかりと考えていきたいです。そのために、福利厚生などで社内を充実させたり、お客さんに対しても環境改善の要望をしてきましたし、これからもしていきます。

今、社内の平均年齢は世界的には比較的若く、ほとんど同世代や次世代が成長しています。これからがとても楽しみです。

現会長や野村専務の想いを受け継ぎ、会社をさらに発展させるべく、取り組みを行ってきた市川社長。経営者はときに孤独だと言われますが、市川社長には多くの仲間がいます。それは、トップダウンの経営では決して成り立たなかったことでしょう。

自分の夢に向かって真つすぐ走り続けてきた市川社長の挑戦は、まだ始まったばかりです。